

立てるようにになりたい！ 全介助状態から歩行可能になるまで

立てるようにになりたい。

九州生まれのM・S様は、献身的で明るい性格でした。両変形性膝関節症や疾病により全介助状態になり、以前のように旦那様と過ごせないことを辛く感じていました。そのような中、「このまま、自宅で生活を続けていけるのか」「夫が自分の介護で疲れてしまうのではないかな」など不安が募っていきました。

その中で、弊社の施術を体験され、「立てるようにになりたい」「トイレに一人で行きたい」と思うようになりました。

今回は、福祉用具を導入しリハビリとマッサージを組み合わせた施術を行いました。その結果、屋内を歩けるようになり、トイレやシャワーも一人で出来るようになりました。

現在、M・S様は、両膝の疼痛に注意しながら、筋力をつけ、ご自身で出来ることを一つでも増やし、

ご家族の介護負担を減らしたいと願っています。



埼玉営業所
門馬相談員

福祉用具導入とチームワークで改善。

今回のケースは、ケアマネジャー、施術師、ヘルパーがチームとなって、適切な時期に適切な福祉道具を使用し、ご利用者・ご家族と一緒にリハビリに取り組み、身体的能力が向上した事例です。

「歩きたい」「夫の介護負担を軽減させたい」と願うご利用者をチームワークで支え、早期改善につながった経緯に焦点をあてました。



肩関節硬縮予防



膝関節のストレッチング

【初期目標】

- ・右下肢の浮腫の改善・下肢筋力向上・両膝関節の可動域改善

【中期目標】

- ・端座位の保持
- ・立位の確保

【長期目標】

- ・右膝関節の更なる可動域拡大
- ・室内歩行の安定

【治療内容】

初期は、両膝（特に右）の疼痛に配慮しながら、関節可動域練習・筋力向上を行う。

現在は、下肢筋力維持向上のためのトレーニング、マッサージ、ストレッチング、促進運動など行っています。

ご利用者情報

ご利用者 M・S様(84歳・女性)
 傷病名・高血圧症(不詳)・両変形性膝関節症(左膝人工関節OP)

右記傷病をお持ちで左人工関節手術後(右も手術が必要と言われている)も両膝に疼痛があり、ほぼ全介助の状態から施術を行いました。
 手摺やポジションバーなど福祉用具をうまく利用しながら、当初ご主人



横田 施 術 師

からトイレ自立、室内伝い歩きができるようになりました。

ご利用者・ご家族の声

◆ご利用者
 自分でトイレに行けるようになり、シャワーで頭も洗えるようになったことで、お父さんの負担が軽くなって嬉しい。

◆ご主人
 すべての立ち上がり介助がなくなり、必ず行っていたポータブルトイレへの移乗介助や掃除もなくなった為、大幅に負担が減りました。

ケアマネジャー様の声

部屋のポジションバーが減り、施術と指導により、部屋のスペースができた為、安全面が向上しました。介護ベッドをやめることができ、介護点数的にも余裕ができました。



手すりを使い歩行可能に



靴が自分ではける